

障がい者に 優しい参道改修は？

町長

地方創生のなかで考える



米本 隆記 議員

【米本】先日の新聞記事では、「伯耆国大山開山1300年」に向けての参道改修が、創生事業の柱のように感じた。

しかし、参道改修をしただけなら、歩行に難のある障がい者などは、長い階段や不安定な上り坂が多い神社やお寺には、簡単には参拝できない。

開山1300年を迎えるにあたり、障がい者などが参拝しやすくする考えはないか。



大山寺山門

【町長】神社やお寺は長い歴史を持つ宗教施設で、単なる観光施設ではない。「大山寺開創1300年祭」は寺の宗教行事である。

「伯耆国大山開山1300年」の取り組みとして、県・中西部自治体や関係団体など広範な力を集め、歴史などを通じて大山の魅力を広めたい。

地方創生の取り組みのなかで、参道も重要な要素であり、バリアフリー化もその一つと考える。

高齢者の

シェアハウスは？

町長

在宅活動を推進する

【米本】都会での孤独死の報道を見かけるが、都会だけのことではない。町内でも今年に入って実際にあった。どのような思いで亡くなられたかと思うと残念で仕方がない。歳を取ると外出しづらくなり、家の中で一日中過ごし、話し相手が欲しくなる。しかし、介護の必要ない人が入れる施設は高額で入所はむずかしい。動ける高齢者が集まるシェアハウスをつくってはどうか。

【町長】よい提案だと思うが、日ごろ訪問時の聞き取りでは、要支援者の多くは自宅で、住み慣れた地域で暮らしたいと言われる。

本町は施設での生活支援ではなく、地域で見守り、地域で支えあう在宅活動を推進する。



若者が集まるシェアハウス(門前)